



令和7年5月26日

発行：矢沢宰記念事業実行委員会

第三十一回

矢沢宰 生命の詩の集い

矢沢宰賞 受賞者発表

最優秀賞は

燕市 青柳雄大さん

「黒板」

最優秀賞
青柳 雄大さん

矢沢宰賞の表彰式が去る令和六年十一月二十四日、見附市中央公民館大ホールにおいて開催された。昨年に引き続き対面での開催であったが、会場が変わったことから会場設営に工夫が見られた。

会場のエントランスをパネルで仕切り、来訪者たちが楽しめる雰囲気を作った。例年の宰資料の展示は最少に止め、おなじみとなった大きなオサムちゃん人形やマンガパネル、詩の内容に合わせたオサム人形などが会場入口を飾った。また、ギャラリィみつけで開催された沢村澄子展の中から、宰の詩を大きな不織布に墨書された作品が天井から釣り下げられ壁面に展示された。

今回の応募作品は、全国十九都府県から九百三十九編が寄せられた。八木忠栄氏が全作品を独りで選考し、最優秀賞一編、奨励賞四編、入選三十三編が選出された。

オープニングはアルカディア少年少女合唱団のミニコンサート。来賓の稲田市長、県特別支援学校山田会長の祝辞の後、表彰式が開

式された。実行委員長より賞状・賞品が贈呈され、稲田市長、渡邊教育長からは全員に金メダルが首に掛けられた。

作品朗読では、最優秀賞の青柳雄大さん、奨励賞の天野優海さん、袖山青依さん、粕川陽菜乃さんが自作を朗読し、川端愛莉さんの

遠間保先生逝去される



吉住先生と共に長い間、宰の語り部を務め、宰の人生や詩を拡めるため活動して来られた遠間保先生が、令和七年二月十四日、九十二才のご生涯だった。

先生は三条養護学校に赴任後、宰が中一から中三に特進する際学級担任となる。高校受験の指導をされると共に、卒業見込み、退院見込みの形で受験できるよう県、高校と折衝を重ね、宰の高校受験に道を開いた。

宰の死後は、吉住先生たちと詩集「光る砂漠」の出版に尽力され、その後も機会を求めて中学生達に宰の生き方や純粋な詩の心を伝え続け、平成五、六年には、NHK新潟ラジオ放送の「朝の随想」の時間に、宰の詩や人生の素晴らしさを十回に亘って語られた。

後年、「朝の随想」の原稿や、寄稿文、講



作品は代読された。
村上徹氏
記念講演として、イラストレーター、まちの駅駅長、市公式レポーターの村上徹氏が「宰とオサムちゃん」のマンガで楽しむ矢沢宰」の演題で講演を行なった。オサムちゃんのキャラクターを創り上げるまでの過程や、宰の詩や宰の心情を自分なりに解釈し四コママンガに落とし込んでゆく方法を、パターンを分析しながら紹介していた。

氏の宰の詩に対する暖かく深い共感と共に、市公式レポーターとして見附市のPRにオサムちゃんを活用したいという想いが感じられた講演であった。

演原稿などを纏めて「人間の運命」の題目で出版されている。

遠間先生、吉住先生のお二方を失って、私は宰の生き生きとした姿を、もうお聞きすることは出来ない。だが、お二人が数十年の間、大切な宝物のように宰を語ってこられたお姿を思うと、とても尊いものに思われる。心からご冥福をお祈り致します。

《遠間 保 先生略歴》

昭和七年四月十四日 新潟県北蒲原郡聖籠村生まれ
新潟県立新発田農業高等学校 新潟大学教育学部卒業
栃尾市立中学校、県立三条養護学校、長岡市立北中学校 悠久分校、県立柏崎養護学校の各分校に教諭として勤務
県立月ヶ丘養護学校ふなお分校教頭、新潟市教育委員会指導主事、県立高田盲学校校長、県立長岡聾学校校長、新潟市立礎小学校校長をへて平成五年三月定年退職
令和七年二月十四日 老衰により死去 満九十二歳

第31回矢沢幸賞受賞者

最優秀賞	青柳 雄大	黒板	新潟県立吉田特別支援学校高等部3年
奨励賞	天野 優海	雨の子守り	大月市立大月東中学校1年
	袖山 青依	ちかに ぐうんと 足を のばせ	見附市立名木野小学校2年
	川端 愛莉	自立に向けて一歩ずつ	熊本県立盲学校高等部2年
	粕川 陽菜乃	ファッションショー	前橋市立箱田中学校1年
入 選	青木 咲幸	「星とこんぺいとう」	前橋市立箱田中学校1年
	石川 木の葉	旅行	見附市立上北谷小学校5年
	伊藤 愛華	この広い地球で	新潟市立東新潟中学校1年
	伊藤 百花	空	見附市立名木野小学校6年
	井上 陽向	変わった私	長崎県立希望が丘高等特別支援学校3年
	大浦 愛希	逆パンダ	見附市立南中学校1年
	岡田 媛奈子	海	十日町市立中条中学校1年
	川上 直生	学校	見附市立南中学校1年
	神戸 天飛	ぼやき	横浜市
	菊地 寛菜	空のくも	見附市立葛巻小学校2年
	菊地 璃奈	線香花火	前橋市立箱田中学校1年
	北口 緋希	笑顔の秘密	神戸市立盲学校中学部1年
	北原 穩空	思い出	愛知県立春日井高等支援学校高等部1年
	黒木 俐玖	今 思うこと	熊本県立盲学校高等部3年
	小菅 唯人	僕の宝物	前橋市立箱田中学校1年
	ごみかわ かえで	たべもの	見附市立名木野小学校1年
	近藤 里咲	自然に溢れる涙	見附市立西中学校1年
	齋藤 姫衣	雨の日の教室から	鶴岡市立櫛引中学校1年
	佐久間 煌	「自然」	鶴岡市立櫛引中学校1年
	佐藤 拓実	瞳を開けば	川崎市立西中原中学校3年
	白石 結楠	卓球	春日部市立大沼中学校1年
	杉本 愛莉	星の世界	新潟市立新潟東中学校1年
	鈴木 詩歩梨	太陽は人をみている	見附市立名木野小学校6年
	高橋 京雅	兄ずるい	見附市立名木野小学校6年
	高橋 優衣	あいさつ	川越市立山田中学校1年
	富沢 明希	手紙	十日町市立中条中学校1年
	中村 隼輔	「争いと平和」	長崎県立諫早東特別支援学校中学部3年
	中村 周音	クラスメイト	春日部市立大沼中学校1年
	野田 惺	ちゅうとはんぱ	大阪府立中央聴覚支援学校高等部1年
	橋壁 奈歩	扉	栃木県立盲学校高等部1年
	濱田 茉祐	日常	成田市立中台中学校3年
	山田 優花	空	十日町市立中条中学校1年
	山中 ルーカス	スリーポイントシュート	前橋市立箱田中学校1年

※ 入選は五十音順

.....第31回 矢沢幸賞最優秀賞.....

黒板	青柳 雄大	一人一人が書いて消しても
	(新潟県立吉田特別支援学校高等部3年)	
		黒板に思い出は
		しみこんでいく
		今までの生徒や先生が書いた黒板は
		教室の宝だ
		落書きした字や絵も
		すべてしみのこる
		いっぱい思い出を書こう
		黒板はきつと喜ぶ
		黒板は思い出のけいじばん
		どんなに見えなくても
		しみこんでいく思い出
		どんなに消しても
		思い出はのこる
		これからも思い出を
		届けてあげる
		黒板に



第三十一回

矢沢宰賞の選考を終えて

八木 忠栄

今年の夏の猛暑は、みなさんも経験されたことでしょう。「異常気象」のせいでしょうか。

それにもかかわらず、みなさんからたくさんの方の応募があったことはうれしき限りです。暑さにめげず元気だったか、悩んでいたとしても、若者らしく前向きです。それが大切なことだと思います。コロナ禍のために三年連続で授賞式「矢沢宰 生命の詩の集い」は中止になりましたけれど、昨年から再開されています。うれしいですね。

世の中には「常識」とか「通念」というものがあります。それもちろん大事ですが、それにばかりとらわれていては、自分の世界を固くちっぽけなものにしてしまいます。周囲にいろいろな言葉が溢れていますが、自分の言葉や捉え方をもつことが最も重要です。この賞はそのためにもあるのです。

会場に入選者のみなさんと初めてお会いして、その作品を思い浮かべるときが、選考者である私にはとてもスリリングな瞬間なのです。「この人があの詩を書いたのか!」と。今年も授賞式に、私は体調が悪くて出席できませんけれど、作品に付した選評をくりかえし読んでください。何度も読み返して、選評はみなさんが詩を書くときのエネルギーに負けていないつもりです。自分の時間は少しずつ増えてくるでしょう。時間を作って詩作にも挑みましょう。すべての作品に目を通して、最終的にご覧のようにしほりました。入選の喜びをふくらませ、また選にもれた悔しさを倍のエネルギーにして、今回だけでなく詩を愛して書きつづけましょう。

—「矢沢宰 生命の詩の集い」より転載—

秋

秋は透明な
薄いむらさきだ
むらさきの秋は
騒がしいものを寄せつけない
体の透きとおる人だけ
そおっと淋しくなでるのだ
むらさきの中では
淋しがりやだが
強い死なない人だけが
首をたれて
落葉をハラハラと浴びるのだ

(16歳)

Autumn

Autumn is
pure light purple.
The purple autumn
keeps the sounds of gathering at a
distance.
She softly and loneliness
touches only the pure.
In the space veiled with purple,
only the ones who are strong and
immortal,
though always feeling lonely,
while bowing their heads,
could enjoy the fluttering of leaves.

(Aged 16)

— 矢沢宰詩英訳プロジェクト会議 訳 —



ネーブルみつけ

宰コーナーリニューアル

ネーブルみつけのまちづくり課に隣接して設置されている「矢沢宰コーナー」が、リニューアルされた。

今迄は宰の詩とそれに触発された作品を中心に展示していたが、今回はまちの駅長でイラストレーターの村上徹氏のアイデアを基に、再構築された。

宰をもっと身近に感じ興味を持ってほしい、宰の詩を読んでみたいと思うきっかけに、詩という敷居の高さを取り払ってほしい、などのコンセプトのもと、「矢沢宰の部屋」として再オープンした。

入口はおなじみになった等身大のオサム人形。ベンチもあり、並んで自撮りもできる。立川厚生氏の立体作品が関連する宰の詩と共に掲げられ、詩の雰囲気や別の角度からも表現している。宰の詩への入口を拡げるとい意味で、とても素晴らしい展示といえる。詩の語るものを哲学的に、人生論的に考えることもそれなりに意義のある事ではあるが、宰の詩を、まずは気分的にふんわりと受けて見るのも、宰への共感の形の一つと言えよう。

現在NHKで「あんばん」が放送中である。主人公はやなせたかしとその妻暢。やなせは詩人としても活躍したが、彼の責任編集した「詩とメルヘン」誌に矢沢宰の詩や絵なども取り上げ、宰を「唇に真珠をふくんだ詩人」として絶賛し、「ほくは矢沢宰の詩が好きでたまらない」と語っている。河野町の矢沢の実家も訪問し、アンパンマンと宰の「再会」の色紙を残している。やなせたかしと宰との意外なつながりも、このコーナーの売り物であろう。

